

## 第13回縄文ハイキング

ハーモニーの家の会

### 黒曜石の市場「駒形」から縄文の里「富士見高原」への旅

2007年(平19)5月4日(金)

解説指導:青木一男先生

#### □ 日程

9:00 ハーモニー発 ⇒ 上之段遺跡 (9:10 着 40発) ⇒ 駒形遺跡 (9:50 着 10:40

発) ⇒

井戸尻考古館 (11:30 着)

・施設見学 11:30 ~ 12:20

・公園で昼食 12:20 ~ 1:30

富士見町歴史民俗資料館

・施設見学 1:30 ~ 2:10

富士見町高原のミュージアム (2:20 着 :3:00 発) ⇒ 3:50 ハーモニー着

#### □ 場所

○ 上之段遺跡 (茅野市北山・北山郵便局の北側)

○ 駒形遺跡 (茅野市米沢北大塩)

○ 井戸尻考古館・富士見町歴史民俗資料館 (富士見町境 7053)

○ 富士見町高原のミュージアム (JR 富士見駅 駅前)

## 駒形遺跡

### (こまがたいせき)

茅野市米沢北大塩駒形にあります。近くに大清水があり、遺跡面積は約3ha。1961(昭和36)年に縄文早期、中期後半住居跡が発掘され、前期の特徴ある石器が出土しました。

## 井戸尻考古館(見学案内)

井戸尻考古館は、八ヶ岳山麓を舞台に生活した縄文時代(約 8000~2300 年前)の生活文化を復元して、現代生活の向上に資することを目的とした施設です。

館内には、今までに発掘調査して出土した資料のうち、二千点余りの土器や石器を年代順に並べ、移り変りや用途を知ることができます。また、住居展示や食物・装身具・衣類なども併せて展示し、一見すればわかるように努めています。また、土器や土偶など文様解読で明らかになった

当時の宗教観念や世界觀・神話などを解説しています。

館外には、5300 平方メートルの敷地に炉址・配石遺構のほか、栽培作物圃場・石器材料岩石園を設け、当時の食生活や農具の究明を行っています。また、史跡井戸尻には復元家屋が建ち、涸れることのない湧水の音に耳を傾けると、少しのあいだ縄文の世界に浸ることができます。

## 史跡 井戸尻遺跡

日本列島のほぼ中央に位置するハケ岳の裾野には、中小の河川が放射状に流れ、帯状の台地や尾根をつくっている。このような地形は、ちょうど、手の甲にハケ岳をおいてみた状態にしばしばたとえられる。広大な裾野は、立場川を境にして西北側を西麓、南東側を南麓と呼び分けている。

遺跡は、海拔800~1000mのこうした尾根や台地上にあり、縄文時代、とりわけ中期の遺跡が数多い。とくに遺跡が密集しているのは、立場川から東へ二つ目の母沢から、東の鹿ノ沢までのおよそ2.5kmの範囲で、井戸尻・曾利・藤内・九兵衛尾根・居平・唐渡宮・向原など、名だたる遺跡が集中し、「井戸尻遺跡群」を形成している。

またここは、ハケ岳山麓遺跡群の中でも中核を成す一帯である。名の由来となった井戸尻遺跡は、JR信濃境駅から約1.2kmほど南に下ったところにあり、沢を挟んで西に曾利遺跡の尾根が並行している。このあたりからの眺めは絶景で、甲斐駒や鳳凰の山脈が前方を遮り、その遙か南東に富士山が端座している、風光明媚な場所である。

遺跡は、昭和41年に国の史跡に指定され、住居を復元するなど史跡公園として整備された。遺跡の東には、いにしえからの湧水があり、その豊富な水を利用して、水生・湿生の植物園が作られた。周囲の景観も含め、「縄文の泉」公園として訪れる人々の憩いの場となっている。また昭和50年、曾利遺跡の第4号住居址から出土した7点の一括土器が、縄文時代の遺物として、県宝に指定されている。

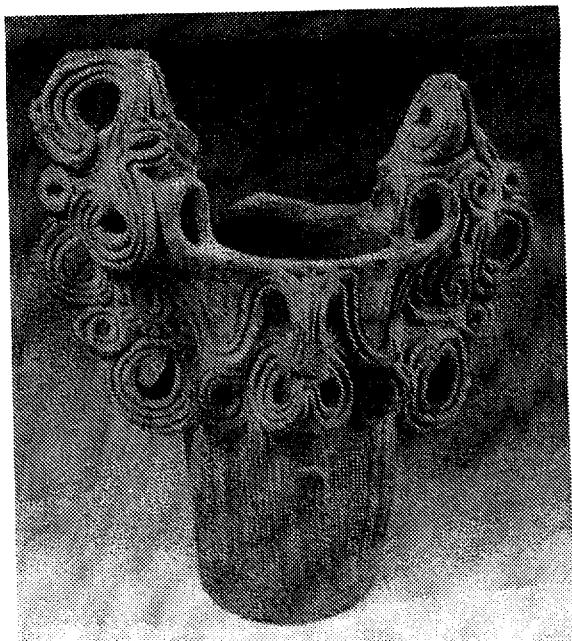
## 富士見町高原のミュージアム(概要)

富士見町高原のミュージアムは、1994

年11月に開館した博物館・図書館・公民館の複合施設、富士見町コミュニティ・プラザの中にある博物館です。「富士見高原の自然と文学」をテーマに、現在は主として郷土・富士見町にゆかりのあった文人たちを紹介し、これらの関係資料を展示しています。

富士見高原には、明治期より多くの文人たちが来遊し、この高原を題材とした小説・詩歌・俳句などが数多く生まれました。当館では、これらの作品やゆかりのあった文人たちについて調査・研究し、富士見高原の文学を核に郷土資料の収集・整理などの活動をおこなっています。

また館内では、映像で富士見高原の四季の自然をつづりながら文学を紹介するコーナーなどを設けて、ビジュアル的にわかりやすい文学の展示に努めています。



国史跡 駒形遺跡

